

厚生省大臣官房統計情報部，都道府県，保健所を設置する市・特別区および保健所の協力を得て実施する。
(小山泰代記)

特別講演会 (Pat Boling および Mark Perlman)

1998年7月23日(木)午後1時～3時には厚生省別館7階共用第13会議室でパトリシア・ボリング (Patricia Boling) 米国パーデュー大学政治学科・女性学プログラム准教授 (Associate Professor, Department of Political Science and Women's Studies Program, Purdue University, USA) による "Japanese Family Policy in Comparative Perspective" (国際比較の視点からみた日本の家族政策) と題された特別講演が行われた。同教授は講演直前に "Family Policy in Japan" (*Journal of Social Policy*, Vol.27, No.2, 1998, pp.173-190) を公刊し，それを拡張した研究の一部を報告した。テーマが時宜を得たものであったため，特に女性を中心として外部の研究者が多数参加し，活発な議論が繰り広げられた。

1998年9月18日(金)午前10時30分～12時30分には国立社会保障・人口問題研究所所長室でマーク・パールマン (Mark Perlman) 米国ピッツバーグ大学経済学科名誉教授 (Professor Emeritus, Department of Economics, University of Pittsburg) による "Aging Populations and Social Security: The Priority Tasks for Demographic Economics in the Next Decade" (高齢化する人口と社会保障一次の10年間における人口経済学の優先課題一) と題された特別講演が行われた。同教授は戦後の初期に人口経済学的業績を多数公刊しただけでなく，社会保障にも造詣が深い方なので当研究所の2大研究関心を統合するような内容の有意義な講演を行った。また，当研究所の府川哲夫・社会保障基礎理論研究部長による討論とわが国を代表する人口経済学者である小川直宏・日本大学人口研究所研究部長によるコメント等のおかげで少数精鋭の参加者による密度の高い議論が行われた。

(小島 宏記)